



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



正常化献金に頼らない財政へ

教区経済問題評議会

教区経済問題評議会が四月十八日(日)教区本部で開かれ、二〇〇九年度の決算と二〇一〇年度の予算を審議した。特に問題となつたのは二〇〇七年度から始められた財政正常化献金の取り扱ひの件。

この献金は元来緊急募金として始められたもので、教区会計の赤字の埋め合わせとして臨時に施行されたもの。その効果は年平均九百万円台で推移し、教区の事業のために大いに助けとなった。しかし一方、教会の現場では、教会維持費収入の減少が進行している現実が指摘され、この正常化献金が小教区財政を圧迫しているという認識で一致した。

「教区巡礼委員会」立ち上げを承認

司祭評議会

四月十九日(月)教区本部で開かれた司祭評議会にて、郡山司教は「鹿兒島教区に散在するキリスト教に關する巡礼地若しくは顕彰地をもつと教区内外に発信

する必要がある」と強調した。その上で司教はすでにザビエル跡地巡礼マップなどを手掛けている篤志家のグループを教区巡礼委員会として承認するよう諮問し

葬儀の在り方を分かち合う 定例司祭会議

四月二十日(火)教区本部で開催された教区で働く全司祭が集う「定例司祭会議」では、教会での葬儀の実際やその司牧的意味を求めて、各教会での実情が話し合われ、葬儀がそれに参加した人に印象深いものになるよう各主任司祭が様々な気遣いをして

た。審議の結果、それは意義深いことであり、鹿兒島教区に必要なこととして、全員一致で賛成した。

カトリック北薩大会 混迷する現代に輝く信仰 「福音宣言」

日時:5月30日(日)10時15分 場所:鹿兒島純心女子大学(川内キャンパス)江角記念ホール

[プログラム]

- 10:00 受付
- 10:15 開会式
- 10:30 ミサ
- 11:30 昼食・休憩
- 12:30 講話

講師:晴佐久昌英神父(東京教区・多摩教会)

テーマ:「福音宣言」

14:30 閉会式

※北薩地区以外の方もご参加下さい。

YET

長年住んだ市内の高台にある公営住宅から、錦江湾を臨むことが出来る集合住宅に引っ越してきて間もなく十年になる。越してきた最初の日、ベランダから見ると、錦江湾に浮かぶ桜島を見て母は「こんな所に住みたかった」と声を上げた。遠方で舎監として働いている母だったから、仕事に就いている間は、その日の感動を形にすることはできず、ただ年に一、二度やって来るだけだった。そして昨年の母は退職。ようやく夢の実現と思っていたに、一般の人よりかなり遅かった息子の結婚が実現したため、気を使った母は「こんな所」に未だ住めないでいる。母を感動させた窓から見える桜島と錦江湾は、いつもカーテンの向こう側にある。でも十年が経って自分にとってはありきたりの風景となつてしまつた。一方、二歳七か月になるうんとする息子には、海が、山がとても意味あるものらしく、桜島の爆発の度に「ドカーン」と声を上げて大はしゃぎ。噴煙を動物に見立てて喜んでゐる。また太陽の光に輝く海を見ては、それに向かって手を伸ばし「キラキラ取って」とせがんだりする。朝目覚めて顔を洗って仕事に行く毎日。何百回、何千回となく繰り返される所謂「日常」...そんな中に喜びを見いだせなくなつてゐる自分だ。劇的に感動する生き方なんて望むべきでもないが、せめて窓から見えるあの「こんな所」の景色を認めることのできる感性と日常を繰り返すことのできる喜びを感じたいと思う。

新風

五月は、典礼的には復活節の中にあります。復活の朝、空の墓を見てイエスの遺体がないことを知り泣いていたマグダラのマリアに、イエスは「だれを探しているのか」と声をかけました。その時点から聖霊降臨までの五十日間教会は典礼で主の復活節を祝います。最初は疑心暗鬼だった弟子たちも三度も現われてくださったイエスをだれも「あなたはどこなただすか」と問いただそうとはしなかつた。主であることを知っていたからである。(ヨハネ福音書二十一章12節)という報告があります。

つまり、復活節とは復活したイエスと出会う喜び合うだけではなく、

復活節と自分探し

このイエスはどんな方であるのかを深く理解する期間なのです。復活祭に洗礼を受けた信者にとってはその恵みを深く味わう季節であります。すでに洗礼を受けた人にとつては、毎年イエスの新しい面を発見して、さらに深くイエスを知り愛するようになる季節でもあります。

ヨハネの黙示録に次のようにあります。「わたしは愛する者を皆、叱つたり、鍛えたりする。だから熱心に努めよ。見よ、わたしは戸口に立つて、たたいてゐる。だれか私の声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入つてその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」(三章19、20節)。

教会にはキリスト教を勉強したいと尋ねて見える人が多くいます。しかしその人たちにすぐ神さまの話ができるわけはありません。お話を聞いてみると、その方たちはその時点では自分探しをしていることに気づくからです。

学園情報

▼純心短期大学 鹿兒島純心女子短期大学では、任期満了に伴い三月三十一日付退任した稲井道子学長の後任として平山久美子修道女が学長職に就いた。



今回は『聖霊』について神学的にどのように捉えたいのかを、学びを中心としながら深めて行きたいと思えます。聖書箇所は聖霊降臨の主日(使徒言行録二・1-11、ローマの信徒への手紙八・8-17、ヨハネ十四・15、16、23b、26)を使用します。

司祭不在時における集会司式の形式で進められますがミサの形式と殆ど同じなので割愛します。聖書の朗読後、聖霊降臨について互いに理解を深めるため幾つかの神学者の文書からその理解を深めたいと思います。

(1)「カトリックの信仰」(あかし書房、一九九三年改訂版、80、81頁、鹿児島教区司祭評議会編) 聖霊についても竹山神父様が聖書に基づき、簡潔にまとめて下さっています。以下はその内容です。『復活のキリストが弟子たちに出現したことを語る場面の一つに、死の前にイエスが約束された聖霊を弟子たちに与え、その聖霊の力によって罪を赦す権能と使命を与えたことが述べられている(ヨハネ二十・19、23)。イエスは遺訓の中で約束したことを父なる神のもとに帰った(復活した)今、果たす。『弁護者』『真理の霊』『神の霊』『神の息吹き』など、さまざまな言葉で表現されている聖霊が父なる神と復活してキリストとされたイエスから、弟子たちに与えられて、弟子たちの力の源となる。：中略：イエスの使命が弟子たちに受け継がれることは、弟子たちが聖霊を受け取ることによって、現実となる。五旬祭と呼ばれる祭りの日にも弟子たちは、聖霊の力と促しが自分たちを満たしていることを感じて力強く宣教を開始した。(使徒たちの宣教二・32

33、36) 弟子たちだけではなく、弟子たちの宣教によってイエス・キリストを信じた人々にも聖霊が与えられる。弟子たちはそう証言し、今なおそれはキリスト者の確信でもある。』

(2)「カトリック教会のカテキズム」(カトリック中央協議会発行、二〇〇二年発行) 六八三〜七四七項参照。三位一体の神学的立場から詳しく説明されています。

六八三「神は『アッバ、父よ』と叫ぶ御子の霊を私たちの心に注いで下さり(ガラテア四・6)この霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです(一コリント十二・3)。信仰によるこの認識は、ただ聖

計画の始めから完成のときまで、御父と御子と共に働かれます。しかし、御子の受肉によって始まった「終わりの時」になって初めて、神的ペルソナとして啓示され、与えられ、認められ、受け入れられました。新しい創造の「初子」であり頭であるキリストにおいて成就された神の計画、すなわち、教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちは、注がれた聖霊によって人類のうちに具現します。

七三一〜七三二 聖霊降臨の日、キリストの過越しは、聖霊の注ぎで完成します。その時聖霊は神のペルソナとして現れ、与えられます。この日、主であるキリストはその

北薩地区宣教奉仕者(信徒使徒職)養成講座 『聖霊』について

出水教会主任司祭 大松 正弘

霊の助けだけによって可能となりません。：中略：私たちの内に信仰を生じさせて下さるのは聖霊です。信仰の最初の秘跡である洗礼によって、御父の内に源泉を持ち、御子によって私たちに与えられるいのちが、教会の中で、聖霊により、親しく一人ひとりと与えられます。

六八五 したがって聖霊を信じることは、聖霊が聖三位のペルソナの二者であり、御父と御子と同一の本質を持つておられるかた「御父と御子と共に礼拝され、たたえられる」かたであると言言することです。聖霊に関する神秘が「三位一体の神学」で取り扱われるのはこのためです。ここでは神の救いの「営み」における聖霊について述べます。

六八六 聖霊は、救いの

です。わたしたちが自分を捨てる度合いに応じて、聖霊の導きに従って生きることになるのです。

(3)「カトリック教会の教え」(カトリック中央協議会編、二〇〇三年一一五〜一二二頁) 岩島忠彦神父様は①聖霊は神のいのち、②神は三位一体の神、③神の人間への恵みとして説明して下さいます。

①聖霊は神のいのち：旧約の時代から顕著に示されています。(ヘブライ語で霊(ルアハ)は風、息の原意を持ち、神の霊、主の霊というとき、神ご自身の直接の働きかけを示しています。神の霊は万物を創造・保持し、すべての生けるものにいのちを与え

満ちあふれるところから、霊をあふれるほどに注がれます。：中略：この日から、キリストによって告げ知らされた神の国は、キリストを信じる人々に開かれます。彼らは人間としての弱さを持ちながら、信仰によってすでに聖三位の交わりにあずかります。聖霊はたえず訪れ、世界を「終わりの時代」、教会の時代、神の国に導きいれます。その神の国はすでに始まっています。したがって、完成したわけではありません。

七三六 この聖霊の力によってこそ、神の力は実を結ぶことができます。：中略：聖霊はわたしたちに「愛、喜び、寛容、親切、善意、誠実、柔和、忍耐」(ガラテア五・22、23)の実を結ばせて下さいます。霊は私たちのいのち

とされています。イスラエルの指導者たち(モーセや士師など)は主の霊を受けると力強い働きをしたとされ、預言者が現れると彼らは特別に神の霊を受けた者として、霊によって神の言葉を語りました。やがてメシアこそが本来の霊を受ける者といわれ、終末にはすべての人々に神の霊が注がれるといわれています。新約においては、霊はま

②神は三位一体の神：初代教会の初期、洗礼は「イエス・キリストの名によって」(使徒言行録二・28)授けられていました。すが、父と子と聖霊の名による洗礼に変わって行きました。ミサにおいても、父なる神と御子キリストの救いのわざが想起され、聖霊が与えられることを願う形式がとられました。信仰生活一般においてこの三つの名が大切にされ、信条においても父と子と聖霊に対する信仰が宣言されました。三二五年のニケヤ公会議と三八一年コンスタンチノーブル公会議で決定された信仰宣言が唯一、教会の正当な信仰宣言として確定されました。この後も三位一体の神学は論争され、教義で何度も確認されてきました。

③神の人間への恵み：三位一体の教えに従うと、人は聖霊を受けることによって、三位一体の神ご自身の愛の交わりにとりいれられ、キリストと同じように神の子とされま

「感謝の祈り」参加者の誰かが自分のことばで感謝の祈りをささげる。

次回は五月十六日(日)十四時から、出水教会で。

〔和善の窓から〕 その(土) いのちの杖ことば

阜月、聖母月です。母マリアに護られて、御言葉への思いを深めていきたいものです。「御言葉の分かち合い」のお祈りは、その「第6ステップ」で、「いのちの杖ことば」を取り上げます。いのちの杖ことばとは、今日一日、この一週間、あるいは自分の生涯にわたって、現実の中で自らを指導する「ことば」を指します。

和善の聖書の学びは、「キリスト教的人間学」の試みでもありますから、学びの全過程を通して、生活上、人生上の「杖」となる「いのちの言葉探し」をその中核に据えています。自らの信仰を養う、あるいは自らの人物を養う学びは、いわゆる「事務学」よりも「人間学」という側面に、意識的に重きを置いていくべきだと思います。

倒れないように、倒れても立ち上げられる

ように、立ち上がったら一歩でも前進できますように、その杖のような言葉は、聖なる学びを継続していく中で与えられるものです。人生、ここぞというときに自分を支えてくれる「いのちの言葉」を持ちたいものです。

聖母月に当たり、御言葉の母マリアの助けを祈りながら…

～和善のご案内～

▲和善の学びは直線的ではなく螺旋的に進行しますから、少し忍耐が必要ですが、何時からでも、どなたでもどうぞ!

■場所：本部3階 実施：月18:30(救済史+AsIPA) 水10:00(救済史+AsIPA：第2、4) —WAZEN ころろ相談室(第1、3：要予約※お問い合わせ：☎099-226-2430 Ms. ヤマダ 火・水・木・土 午後1時～5時まで) ※金10:00(救済史+AsIPA)

◆和善耕心塾ブログ◆
http://mr826.net/wazen/blog



+KABAYAN SEKSIYON+ "TUGON"

Iminumungkahi ng PCP II na ang pangunahing tulong na ating kailangan sa pagharap sa mga hamong ito ay ang isang "Pinanibagong Katekesis" na nagbibigay diin sa pagpapanibago sa panlipunang paglilingkod at pagsamba. Nangangahulugan ito ng isang katekesis na nakasentro kay Kristo, nakaugat sa mga buhay na Salita ng Kasulatan at tunay na maka-Pilipino at sistematiko. Ang layunin ay upang maipahayag sa angkop na paraan ang "totoong aral" ng Ebanghelyo. Ang pang-unahing "katotohanang" ipinakikita sa Kasulatan ay nilikha tayo ng Diyos na malaya na may kaukulang pag-sasarili. Hinahangad ng Diyos ang ating sariling kabutihan. Ngunit hindi nito itinatakwil, sa anumang paraan, ang ating lubusang pangangailangan sa Diyos. Walang nalikhang daigdig kung walang Manlilikha. Mapangangalagaan ang tunay na dangal ng tao sa pamamagitan lamang ng pagtingin sa bawat tao na kaugnay ng Diyos na Siyang pinagmulan at huling hantungan ng lahat. Nakasalalay ang ating tunay na dangal sa katotohanang tinawag tayo upang makapiling ang Diyos. Ayon sa *Vaticano II*: Kung umiiral tayo, ito ay dahil nilikha tayo ng Diyos sa pamamagitan ng pag-ibig at sa pamamagitan din nito ay patuloy Niya tayong pinaiiral. Hindi tayo mabubuhay nang ganap ayon sa katotohanan kung hindi natin malayang tatanggapin ang Kanyang pagmama hal at ipapaubaya ang ating mga sarili sa ating Manlilikha. Ipinakita ni Kristong Muling Nabuhay kung paa-natin maisasakatuparan sa angkop na paraan ang isang "pinanibagong katekesis" sa kanyang pakikipagtagpo sa dalawang alagad papunta sa *Emmaus. Una*, sumabay si Kristo sa paglalakad ng dalawang nagdudu dang alagad at nakinig sa kaniyang salaysay. *Pangalawa*, kanyang "ipinaliwanag sa kanila ang lahat ng nasa saad sa Kasulatan tungkol sa kanyang sarili". *Sa wakas*, inalok niya sila ng pagkakataong maniwala sa pamamagitan ng kanyang paghabati ng tinapay kapiling nila. Kayat iniwan ni Kristo ngayon sa kanyang mga tagasunod ang kanyang salita at "pagkain para sa paglalakbay sa Sakramento ng pananampalataya. Dito ang mga bagay na nagmula sa lupa, ang mga bunga ng ating pagsisikap, ay nababago sa pagiging maluwalhatang katawan at Dugo Niya, bilang isang hapunan ng pakikipagkapwa at isang patikim sa darating na makalangit na piging". Bilang paglagom, ang Kristiyanong doktrina o aral ay isang buhay at nagbibigay-buhay na katotohanang umuunlad sa loob ng maraming panahon sa inspirasyon ng Espiritu Santo. Isang katotohanang umiiral ngayon ang kaligtasang ito at sumasaklaw sa lahat ng ating inisip at ginagawa, at inaasahan, sa bawat araw ng ating buhay.

夢の実現に一步前進

高齢者の集い「ゆらいあい」がNPOに

レデンブートル宣教修道女会が運営する女子学生寮「聖母寮」(鹿児島市唐湊二丁目十一)を会場に、毎月二回(第二・第四土曜日、午前十一時～午後二時三十分)高齢者の集いを開催している「ゆらいあい」が三月十八日付で鹿児島県知事から特定非営利活動法人(NPO)「聖の郷 ゆらいあい」の認証を受けた。

ゆらいあいは、日本カトリック看護協会鹿児島支部や信徒の有志によって二〇〇三年四月に「高齢者等対策準備室」が設置されたことに端を発する。同準備委員会が目指したものは「高齢者や障害者が信仰を分かち合いながら安心して生き

ていける施設の設立と運営をめざす」で、高齢者に対するアンケート調査を実施するなどして、その不安を取り除く活動を続けてきた。

二〇〇五年六月からは、聖母寮で毎月二回、み言葉とご聖体に生かされて、互いの霊的交わりを大切に、神ともっと親しくなり、神に向かう心を育てるために食事しながらひとときを過ごすという「高齢者の集い」を続けてきた。

今回のNPOの認証を受けて「ゆらいあい」では、今までの毎月二回の集いを継続しながら、組織作りを強化し次の六つの事業を計画している。

四旬節献金を奉納 復活祭に吉野教会学校

第一、第二土曜日に十二人の子どもの参加で教会学校を開いている吉野教会では、四旬節献金のために献金箱を作製。子どもたちが欲しいものを我慢して貯めた愛の献金を復活祭に奉納し、その後カリタスジャパンへ送金した。



- ① 宅老所の運営(入居施設「宅老所」の運営については来月四月をめどに計画を進めており、賛助会員、ボランティアを募っている)
 - ② 介護予防サービス
 - ③ 生活支援に関すること
 - ④ 子育て支援
 - ⑤ 介護保険法に基づく訪問
 - ⑥ 介護保険法に基づく通所介護
- 尚、ゆらいあいには理事長として泉浩二神父(加世田教会主任)、これに理事四人、監事二人が就任した。ゆらいあいへの協力に関する窓口は以下の通り。聖母寮・澤ヤエ子修道女 ☎〇

司教執務室便り 聖書が面白くなる

マリア・ワルトルタという女性の著書の数頁のコピーを姉にもらったのは何年前だったか。目を通してすっかり引き込まれた。イエスや弟子たち、それに裏方役の婦人たちの様子がいきいきと描かれていたからだ。

著書と言っても小説ではない。「主が直接お語りになった」のだという。それが怪しいということになり禁書目録にも入れられたこともあるとか。今でも拒絶反応はかなりのものらしいということを知った。早速問い合せると「私に啓示された福音」全十巻中の二巻はすでに品切れとかで第一と第三巻三分冊、それに手記とマリア様についての著書二冊が届いた。翻訳はまだ続いているらしい。

早速第一巻目を開いた。本文だけでなく七三〇頁もある。そのまま映画化されそうな筆の進め方は聖書入門にはもってこ

いだ。特にヨセフとマリアの宿探しの場面は、幼稚園のクリスマス会での降誕劇を思わせる細かな描写に思わず頬が緩んだ。語弊があるかもしれないが聖書のそっけない語りがある人々にとっては偽福音書と言われる「トマス福音書」と重なって拒絶するのだと思う。そういう人々の気持ちや分らないわけではないが、福音記者たちが語らないわゆる行間を読めば「そうだったかもしれない」と共感するところが多い。そして、聖書の世界が手の届くところで再現されているように読んでいてあきない。そういう言い方が許されるかどうか分からないが、聖書のいわゆる「副読本」としておすすめだ。

霊的読書として手に取る分には何ら問題はなく、むしろイエスをはじめ聖書の登場人物たちへの思いや親しみが増すこと請け合いだ。発行元は天使館(〒761-1334 三木) 五二―三三四三



6月22日から二日間

教区本部で「宣教学校」開催

昨年五月、三日間におたつて教区本部で開催された「聖アンデレ福音宣教学校」研修会から一年、ようやく同研修会で学習したことが実を結び、教区本部で会場に宣教学校が開催(六月二十二日～二十四日)される運びとなった。この鹿児島での宣教学校開催を準備してきたのは、谷山教会で毎週「祈りの集い」に参加してきたメンバー。

責任者の久保俊弘(終身助祭)さんは、この宣教学校開催に当たって「み国の子として新しく生まれるために、聖霊の新しい注ぎを受け入れ、復活されたイエスとの個人的な出会い、神の救いを体験することができると受講を呼びかけ

5月の会と催し

- 2日(日) 復活節第5主日
- 3日(月) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
- 9日(日) 復活節第6主日

● 世界広報の日(献金)

教皇ベネディクト16世は、44回目となる今年の「世界広報の日」にメッセージ「司祭とデジタル世界における司牧、みことばに仕える新しいメディア」を発表した。教皇はその中で、教会を神がすべての人と交わるためのしるしであり道具と位置づけ、「信じてない方をどうして呼び求められよう。聞いたことのない方をどうして信じられよう。のべ伝える人がいなければ、どうして聞くことができよう…」とローマ書を引用しながら、現代が求めている最新コミュニケーション技術を用いての宣教に乗り出すよう喚起している。そして教会には「道を探し続ける人に常に心を向ける必要」があるとし、ウェブを「まだ神を知らずにいる人々に、エルサレム神殿の異邦人の庭のような場を提供するものとして思い描いて欲しい」と訴えている。

- 14日(金) 聖マチア使徒
- 16日(日) 主の昇天
- 地区財務委員会・教区本部・14時
- 20日(木) ディーン神父霊名(バルナルディノ)
- 23日(日) 聖霊降臨の主日
- 典礼研修会・ザビエル教会・13時30分
- 24日(月) 三教区司祭合同黙想会・霧島市・～28日まで
- 28日(金) フリチェル神父霊名(ウィルヘルム)
- 30日(日) 三位一体の主日
- カトリック北薩大会・純心女子大学川内キャンパス「江角記念ホール」・10時15分
- 31日(月) 聖母の訪問
- タム神父叙階記念日(2007年)

正式名称決まる 鹿児島オリーブの会

心を病んでいる人たちの受皿になるよう準備を進めている「鹿児島オリーブの会」が、すでに活動している横浜オリーブの会から名称の使用の許可を得ることに立ち上がった。三月

ネット宣教委員会

四月十一日(日)午後、教区本部でネット宣教委員会の第二回会合が開かれ、二月に小教区向けに

二十八日(日)教区本部で開かれた第二回会合では、会の目的を「精神的サポートを必要とする人やその家族と共に歩むこと」と位置づけ、今後、規約などを整備していく。

寝占節子さん

寝占節子さんの母堂マリア・主任司祭の母堂マリア・寝占節子さんが四月九日(金)午前十一時九分、療養先で亡くなられた。

節子さんの葬儀は、四月十一日(日)午後一時から川内教会で大勢の信者が見守る中しめやかに執り行われた。

実施した「パソコンとインターネット環境の有無」に関するアンケート調査から今後、委員会として何をすべきかが話し合われた。

その結果、小教区にインターネット環境はほぼ揃っているものの、その利用方法の理解が十分でないことから、研修できる場を設けることにした。研修はまず鹿児島市内の教会で、主に司教が訪問しミサをささげた後、信徒向けに実施。また司祭に向けては、六月の「司祭年閉年ミサ」時を利用して実施したいとしている。

殉教者の心にふれた旅

中高生の長崎巡礼を終えて

三月二十九日から三十一日まで、中学生十四人と長崎巡礼を行った。今回強く感じたことは、訪れる場所だけでなく、中高生という同じ年齢・同じ信仰を持ったものたちに会えることを楽しみに参加していること。そして鹿児島だけでなく、訪れた場所の方にも支えられていることに気付かされた。この企画を進めていく中で今後の材料を与えられたように思った。(担当：泉 浩二)

僕が今回、この巡礼に参加した理由は二つあります。一つ目は、長崎の大きな教会を見たかったからです。二つ目は、殉教した二十六人の人たちの思いや考えを少しでも知ることができればいいなあと思っただけです。

一日目は、二十六聖人記念館と浦上天主堂へ行きました。二十六聖人記念館では、教科書で見たことのある絵が展示されていてびっくりしました。一番衝撃的だったのが「マリア観音」でした。見た目は仏像のようなのに、じつと見ると確かにマリア様でした。この像を見て当時の人たちの信仰のあつさに感心したの



僕が巡礼に参加した理由は、親から勧められたからで、最初は嫌なところを回って、いろんなことを知ることができてよかったです。はじめは二十六聖人記念館に行きました。二十六人の中には、自分と同じ年ぐらいの子どもからお年寄りまでがいてあらためてびっくりしました。そしてその他にもたくさん殉教者が日本にはいることに驚きました。浦上天主堂は、自分も浦

と、同時に今の自分が少し恥ずかしくなりました。二日目は、コルベ記念館へ行き、そして二十六聖人が歩いた時津から西坂まで歩きました。坂、坂、坂で最後はヘトヘトになりながら歩きました。しかし二十六人の殉教者は、あんな道を雪の中、しかも裸足で歩いたと思うととてもじゃないけれど普通の人ではできないなあと感じました。今回の巡礼で学んだことをいつも心に留めて、先輩たちに少しでも近づけるようにこれからの生活を送りたいと思います。(秋名教会 嘉 凛太郎)

上教会だけでぜんぜん違い、すごく広い教会でした。コルベ記念館では、コルベ神父のように人のために何かできたり、人を助けられるようになったらいいなあと思いました。原爆もアウシュビッツも二度とない平和な世界になればいいなあと思いました。

一番印象に残ったのは、殉教者が歩いた道のりを歩いたことです。すごく長く疲れました。その中で殉教者たちは、はだしだったり、耳をそぎ落とされたり、すごいことをされても、それでも信じて歩いていったんだなあと思いました。三日間、いろんなところ

「沖繩の本土復帰の日に、本土と同じように沖繩においてカラー・テレビが見えるようにする」と佐藤総理大臣。NTT無線部門、特に九州在勤の私たち技術者は「エッ」と絶句。限定的ローカル放送を除き、テレビの内容はすべてNTTマイクロ・ウエーブ・ネットワークにより伝送される。沖繩と鹿児島との距離、カラーの伝送、しかも時間が限られている。標準設計では約五年かかるところ今回は二年しかない。「本当に出来るの」技術屋の頭をよぎる。五十〇を標準として中継所を造り伝送する設計基準はできていたが、沖繩と鹿児島となると話は違う。鹿児島・奄美間、奄美・沖繩間はいずれも約六百〇。途中の島には電力設備

が行って、いろんなものを見て、驚くことばかりでした。僕は、コルベ神父のように人のために何かができたり、殉教者たちのようにもつと強い信仰を持ちたいと思えました。(浦上天教会 嘉元 寛伸)

「パンを欲しがるとに石を与えるか。天の父は求める者に良いものをくださる。おまえたちは悪者でありながらも、自分の子には良いものを与えることを父は知っておられる。」(マタイの福音書) 中継所の屋上へのぼり、声をかぎりに「神さま助けて」と、すさまじい形相で叫んだ。宿に帰る車の中でも気がつかずか皆ダンマリ。まるでお通夜。重い足をひきずりながら玄関を入ると、メーカーの技術者二人が私を迎えた。「神さまに声が届いた」と実感。そして二人の顔がモーセに見えた。事情を話すと「分かりました」と、早速図面を広げて検討に入る。NTTの設備は高基準により設計されている。一方家庭のテレビ受像機は価格面、人

「パンを欲しがるとに石を与えるか。天の父は求める者に良いものをくださる。おまえたちは悪者でありながらも、自分の子には良いものを与えることを父は知っておられる。」(マタイの福音書) 中継所の屋上へのぼり、声をかぎりに「神さま助けて」と、すさまじい形相で叫んだ。宿に帰る車の中でも気がつかずか皆ダンマリ。まるでお通夜。重い足をひきずりながら玄関を入ると、メーカーの技術者二人が私を迎えた。「神さまに声が届いた」と実感。そして二人の顔がモーセに見えた。事情を話すと「分かりました」と、早速図面を広げて検討に入る。NTTの設備は高基準により設計されている。一方家庭のテレビ受像機は価格面、人

「鹿児島に来る用があったので、ついでに奄美まで足を伸ばしてみました」と彼らの弁。わざわざ船に乗って来たのである。神さまが私の声を聞いてくださったと、今でも確信している。工事が終わり、辞表提出どころか、私はNTT本社に呼ばれ、総裁表彰を受けた。「願え、さらば与えられん」(マタイ)の「みことば」によって生かされた体験である。

の目の解像能力などから、NTTの設備基準を少々下げても家庭で見える画質に影響はない。彼らは転用可能な箇所を徹夜で調べあげ、それを暫定的に使って当面テストが可能となった。そして無事に復帰の日を迎えることができた。

霧島 政 ノブ子
純心学園 山頭 信子
川上 和
出 水 沖 弘子
鹿児島 徳永ノブ子
復活祭友の祈りに癒えし日よ
花たまご染めて爽やか復活祭
純心学園 川上 和
エマオ宿弟子ら驚く裂くパンに
メダイつけフライイト任務さくら便
観潮の丘より声を落しけり
汐寄せる岩の朧に白き波
笑いありのどかなひと日黙想会
初聖体笑顔の園児におめでとう

愛光園 春山マリ子
鹿児島 前田 儀子
何時の日か我が身も天に召されると思う
自分にムチ打ち生きる
ありし日の父の琵琶の音映像と共に聴くときいよいよ遠し
夕映えはいよいよすさまじき茜吐き今宵空割る星澄みてあむ
朝まだきみ墓を慕う婦人らに天使は告げる「主は復活した」と

愛光園 春山マリ子
鹿児島 前田 儀子
何時の日か我が身も天に召されると思う
自分にムチ打ち生きる
ありし日の父の琵琶の音映像と共に聴くときいよいよ遠し
夕映えはいよいよすさまじき茜吐き今宵空割る星澄みてあむ
朝まだきみ墓を慕う婦人らに天使は告げる「主は復活した」と

愛光園 春山マリ子
鹿児島 前田 儀子
何時の日か我が身も天に召されると思う
自分にムチ打ち生きる
ありし日の父の琵琶の音映像と共に聴くときいよいよ遠し
夕映えはいよいよすさまじき茜吐き今宵空割る星澄みてあむ
朝まだきみ墓を慕う婦人らに天使は告げる「主は復活した」と

愛光園 春山マリ子
鹿児島 前田 儀子
何時の日か我が身も天に召されると思う
自分にムチ打ち生きる
ありし日の父の琵琶の音映像と共に聴くときいよいよ遠し
夕映えはいよいよすさまじき茜吐き今宵空割る星澄みてあむ
朝まだきみ墓を慕う婦人らに天使は告げる「主は復活した」と

催し物とお知らせ
▼坂本 進神父の「癒しと祈りの集い」日時／五月十七日(月) 十時〜十二時
場所／ザビエル教会一階ホール テーマ 身体の痛みと感情参加費 五百円
http://www.015.upp.so-n
et.ne.jp/nbg/

種子島教会がHP開設
この春、種子島教会がホームページを開いた。英語版と日本語版が用意され、屋久島ともリンクされている。
http://www.015.upp.so-n
et.ne.jp/nbg/

愛光園 春山マリ子
鹿児島 前田 儀子
何時の日か我が身も天に召されると思う
自分にムチ打ち生きる
ありし日の父の琵琶の音映像と共に聴くときいよいよ遠し
夕映えはいよいよすさまじき茜吐き今宵空割る星澄みてあむ
朝まだきみ墓を慕う婦人らに天使は告げる「主は復活した」と

愛光園 春山マリ子
鹿児島 前田 儀子
何時の日か我が身も天に召されると思う
自分にムチ打ち生きる
ありし日の父の琵琶の音映像と共に聴くときいよいよ遠し
夕映えはいよいよすさまじき茜吐き今宵空割る星澄みてあむ
朝まだきみ墓を慕う婦人らに天使は告げる「主は復活した」と

カトリック新聞
1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円
見本紙贈呈いたします
カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。
〒135-8545 東京都江東区豊洲2-10-10 日本カトリック新聞社5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com